

## Q1.硬さを強調するガラスコーティングは、割れたり、剥がれたりしますか？

ポリシラザンの膜をカップリング剤で塗装に溶着させるので割れたり剥がれたりしません。しかし、逆に塗装を傷めることなく剥がすこともできません。この類はコーティングというより「ガラス質の塗装」といえます。

## Q2.ポリマーコーティングは、洗車によって撥水がなくなりますか？

ポリマーはガラスコーティングに比べ、洗剤によって被膜表面が傷みやすいため撥水が弱くなっていきます。

## Q3.他社コーティングに付属しているメンテナンス剤の役割は？

表面の汚れを取ってクリーニングすることですが、コーティング膜そのものを取ってしまうこともよくあります。

## Q4.コーティングの厚みは撥水性と関係していますか？

コーティングの厚みは、撥水性とは関係ありません。

## Q5.コーティング ケアをすると撥水が続きますか？

コーティング ケアは、コーティングの上に乗った汚れ“だけ”を除去して元のコーティングをそのまま残しますので、元のコーティングの撥水が持続します。元のコーティング自体が劣化している場合は撥水は続きません。

## Q6.ダイヤモンドキーパーorクリスタルキーパーを施工すると、ウォータースポットは薄くなりますか？

ダイヤモンドキーパー、クリスタルキーパーの施工には「汚れ除去」の工程がありますので、軽度なウォータースポットなら取れたり薄くなったりします。しかし、しっかりとついたウォータースポットの場合は、作業に「研磨作業(オプション)」を加えてウォータースポットを除去することをお勧めしています。

## Q7.クリアがなくなっている状態は見てわかりますか？

見れば分かります。

## Q8.鳥糞のあとの対処方法は？

糞による侵食の程度により変わります。浅い場合は爆ツヤや爆白ONEで取れます。もう少し深い場合は研磨で取ることが出来ます。ただし、鳥糞の鳥の種類によっては酸が強い場合があり、浸食が極めて深くなっていて、塗装を直さなければならぬこともあります。

## Q9.スクラッチシールドやレストリングコートなどの自己キズ修復機能付き塗装に、コーティングはできますか？

独特の機能で優秀な柔軟性を持っているダイヤモンドキーパー、クリスタルキーパー、ピュアキーパーなら、自己キズ修復機能付き塗装にもびつたりです。(キーパータイムズ2015年7月号参照)

## Q10.自己キズ修復機能塗装の「研磨」の方法は？

研磨作業時、塗装面の熱が上がりすぎないように注意すること。この塗装は、熱が上がると柔らかくなり、傷が入りやすくなるためです。(ギヤアクションポリッシャーは熱が上がりやすく作業しやすいと思います。)

## Q11.ソリッド塗装の車にピュアキーパーを施工すると、スポンジに色がつくことがあるのは何故ですか？

ソリッド塗装にはクリアがないケースもあって、着色された塗装に直接スポンジが触れるためスポンジに色が付くことがあります。特に古い車などに多く、塗装劣化が進んでいてより多く色が付くことがあります。

## Q12.クリスタルキーパーの施工時、ダイヤモンドキーパーケミカル塗布工程で定着しにくい場合、塗装はどのような状態なのですか？

塗装の劣化により表面が凸凹になっていると考えられます。事前に「爆ツヤ」で強くこすって表面を滑らかするか、ダイヤモンドキーパーケミカルを少し多目にして使うと定着するようになります。

**ポイント** きれいな「黄色スポンジ」に変えると意外に簡単にできることがあります。

## Q13.外車の塗装の厚みは国産車に比べ厚いのですか？

外車だからといって、厚いことはありません。ただ、高価格車ほど塗装が厚い傾向があります。

## Q14.研磨でバンパーの色が瞬間にとんでしまうのは、塗装が薄いからですか？

塗装の厚みは同じぐらいです。バンパーは柔らかい樹脂のため研磨熱が出やすく、研磨で部分的に熱が一気に上がると、一瞬で下地から取れてしまうことがあります。

## Q15.研磨のときにコンパウンドをからませないようにするには？

- ・水垢(油性)汚れをよく落としてから研磨をする
- ・同じ場所をしつこく磨いて塗装面の熱を上げすぎない
- ・コンパウンドの量を多く使わずに
- ・パフの掃除をこまめにする

## Q16.ウインドウガラスフッ素を施工する前に、油膜取りをいくら行っても、水が弾いてしまう時はどうしたらいいですか？

油膜取りの量を多くし、こする回数を増やすことや、オービグルサンダーを使用することで油膜はしっかり取れます。

## Q17.軽研磨と鏡面研磨の違いは？

軽研磨は傷のエッジ部分を取って表面を整えツヤが出します。鏡面研磨は塗装を1ミクロン(1,000分の1ミリ)ほど削って、傷を取り塗装面を滑らかにします。

**参考** キーパーLABOでは、最初から研磨を希望されるお客様も来られますが、ご要望をしっかりと伺うと、研磨をしなくてもお客様のお望みのキレイさを実現できる場合が多く、むしろお客様に喜んでいただいています。

## Q18.ダイヤモンドキーパー施工でダイヤモンドキーパーケミカルを施工してから、レジン施工するまで、時間をあけるのはなぜですか？

ダイヤモンドキーパーは、ケミカルを空気中の水分(湿気)と“ゆっくり”反応させることで、強制的に水分と反応させるクリスタルキーパーよりも、より高密度で厚みのあるガラス被膜をつくるために、1時間以上の反応時間を置きます。

## Q19a.クリスタルキーパーを施工して、2週間で上面が水の弾かなくなった車が あったのはなぜですか？

水道水、泥水、雪解け水、黄砂の雨などミネラルを多く含んだ水がボディにかかり、乾燥してミネラル膜(撥水阻害被膜)ができたものと思われます。「ミネラル取り洗車」または「コーティング ケア」で簡単に除去できます。

## Q19b.「ミネラル取り洗車」はボディにレジンが着くから、撥水するのですか？

レジンが表面について撥水しているわけではありません。撥水阻害被膜がかけ取られることで、キーパーコーティング本来の撥水に戻っているためです。コーティング ケアと同じ効果です。

## Q20.キーパーコーティング施工車に虫がついていたので、インセクトリムーバーを使い落としたが、虫の跡が残ってしまったのはなぜですか？

虫の体液には塗装を浸食するほどの強い酸性(蟻酸)を持った場合もあり、コーティングで守られる限界を超え、塗装が傷んでしまった可能性があります。爆ツヤでほとんどの場合、取れたり薄くなったりします。

## Q21.ダイヤモンドキーパーのメンテナンスのAとBを、どのように紹介すれば良いのでしょうか？

紹介の仕方は、「通常はレジン被膜を交換するAメンテナンスで十分です。しかしBメンテはガラス被膜まで手入れしますので、過酷な使い方をされた後とか、より深いきれいさを望まれる方には、Bメンテナンスをお勧めします。」

## Q22.白系の車は、ピッチが目立つのですが、良い取り方はないのでしょうか？

ピッチ汚れは、爆白(爆ツヤ)前に、タールリムーバーを吹き付け、1分くらいしてからこすると取れやすくなります。それでも取れない部分があれば、それはピッチだけではないので、部分的にでも粘土を使うとよく取れます。

## Q23.「爆白」を使用して塗装が白っぽくなった場合はどうすればいいですか？

頑固な汚れが取れたので元々白っぽくなっていた塗装が出たものならば、「爆ツヤ」で強くこする。ほとんどの場合これでOK。あるいは中途半端に汚れが取れたために白っぽくボケて見える場合ならば、「爆白ONE」か「爆ツヤ」でもっと汚れをしっかりと落とします。

## Q24.「コーティング ケア」はキーパーコーティングには使えないのですか？

コーティング ケアは、どんなコーティングのケア(ミネラル膜除去)にも有効です。だからもちろん全てのキーパーコーティング施工車で、ミネラル膜で撥水が弱った時にはコーティング ケアを使えば解決します。

